

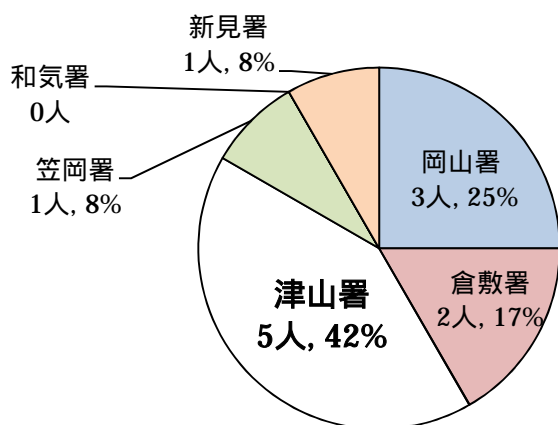
津山労働基準監督署管内で

労働死亡災害 多発!!

津山労働基準監督署における平成 26 年の休業 4 日以上労働災害被災者数は、1 月から 10 月末時点で 228 人であり、昨年同時期の 232 人と比べ、4 人の減少になっております。

しかし死亡災害においては、昨年は 1 年間で 4 人の方が亡くなられていたところ、**本年は 10 月末時点で 5 人の方が死亡**しており、既に昨年 1 年間の死亡者数を超えております。さらに、本年 10 月末における岡山県内の死亡者数は 12 人であり、**岡山県内の死亡災害の内、津山労働基準監督署管内で発生した死亡災害が占める割合は、実に約 42%を占める**状況になっております。

26年10月末 監督署別死亡災害発生状況



本年に発生した死亡災害(裏面参照)は、その発生状況から、基本的な災害防止対策さえ講じていれば防ぎえたであろう災害がほとんどです。

そこで各事業場におかれましては、作業状況等について今一度再確認していただき、4S(整理・整顿・清掃・清潔)の徹底や、KY(危険予知)、リスクアセスメント(危険有害性の調査)などの災害防止活動を展開し、「災害は起こさない!」の決意を持って、安全衛生活動に取り組んでください。

これから年の瀬を迎えるにあたり、なにかと忙しい時期になりますが、そのような時こそ何事もないように、取るべき対策は取り、事故・災害がなく新年を迎えられるように努めましょう。

本年に発生した死亡災害の発生状況（抜粋）

材料の処理装置と、その装置に材料を搬送・投入する機械との間で、被災者が胸を挟まれた。

原因 稼働中の機械の稼働範囲内に立ち入った(立ち入れた)こと、など。

被災者が解体中の建物屋根上で作業中、屋根(木毛セメント板)を踏み抜いて墜落した。

原因 踏み抜きによる危険を防止するための歩み板や、防網を張る等の措置を講じていなかったこと、など。

被災者がチェーンソーで立木(直径 25 cm)を切っていた途中で木が裂けて倒れ、倒れた反動で木の切り口が被災者に当たった。

原因 伐倒方法が適切でなかったこと、など。

災害の多くは、基本的な事項ができていなかったために発生しています。「いつものことだから…」や「ちょっとだけなら…」ではなく、「不安全な状態」、「不安全な行動」を見逃さず、適切な対応をしてください。

なお、岡山労働災害防止対策推進会議(県内各災害防止団体、岡山労働局及び各労働基準監督署)では、「6つの提言」と、「『安全点検の日』の設定」を提唱しています。これらを意識した安全衛生活動の取り組みをお願いします。

◆ 「6つの提言」 ◆

企業

安全文化を再構築するための企業トップの強力なリーダーシップの発揮
リスクアセスメントを有効活用するための指導者の育成

組織

安全に関する技術・技能の組織的な伝承
各階層に応じた適正な指導の実施

個人

常に結果を考えた行動の実施
リスクに対する感受性の醸成

◆ 「安全点検の日」 ◆

毎月、「安全点検の日」を設定して、職場で働く労働者全員による安全点検を行いましょう。



津山労働基準監督署

〒708-0022

津山市山下 9-6

電話 0868 (22) 7157